

業績悪化懸念で米国株は大幅安



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 業績懸念で米国株は大幅安

5月18日の米国株式市場でダウ工業株30種平均は前日比1,164米ドル安と急落し、年初来安値を更新（S&P500種株価指数も同安値を更新、右上図）、下げ幅は2020年6月以来の大きさとなりました。米小売大手の決算が市場予想を下回り、同社が通期の営業利益率も従来予想を下回る見通しを示したことが、市場全体のムードを悪化させました。

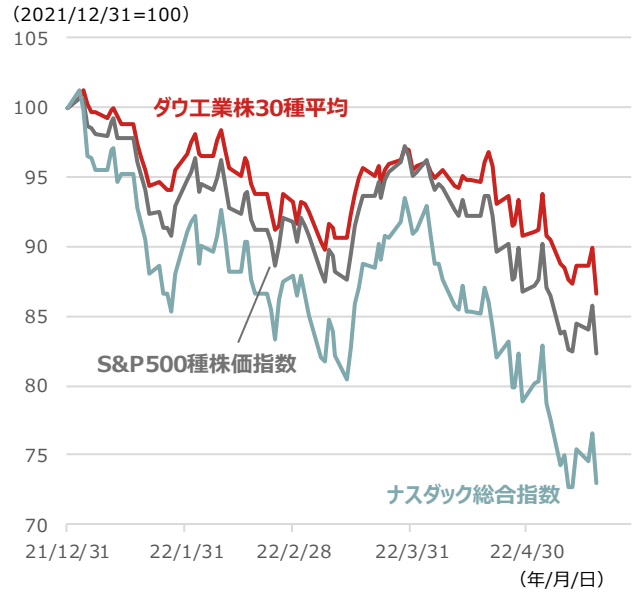
前日には他の小売大手の決算が不振だったこともあり、足元でインフレに伴うコスト増が米企業全体の収益を圧迫するとの見方が広がりつつあるなど、今後の企業業績に対する警戒を強めている投資家は多いとみられます。

ポイント② 株価への業績下振れ織り込み進む

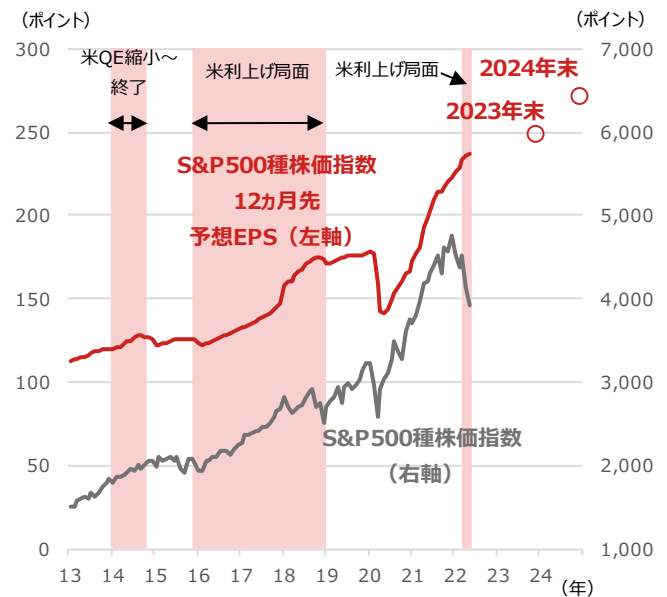
もっとも、株価は企業業績の下振れを警戒し、先駆けて下げていたこともあり、足元の株安は市場心理が極端に悪化する中での、やや過剰反応のようにもみえます（右下図）。もちろん、中国の厳格なゼロコロナ政策による中国経済の失速・供給網の混乱などの影響により、短期的にはS&P500種株価指数の12ヵ月先予想EPSは下振れする可能性もあります。

ただ、同PER（株価収益率）は5月18日時点で16.5倍と、前回利上げ局面（2015年12月～2018年12月）の同平均PER（17.0倍）を下回る水準まで低下しており、業績下振れに対する株価への織り込みは進んでいるとみられます。一時的にEPSの下振れがあったとしても、現時点では2024年末にかけて米企業業績の拡大は続くと思われる（右下図）、下値を丹念に拾っていくことが肝要といえます。

米主要3株価指数の推移



S&P500種株価指数と同予想EPS（1株当たり利益）



*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。